

東京大学大学院都市工学専攻
都市デザイン（西村・窪田）研究室

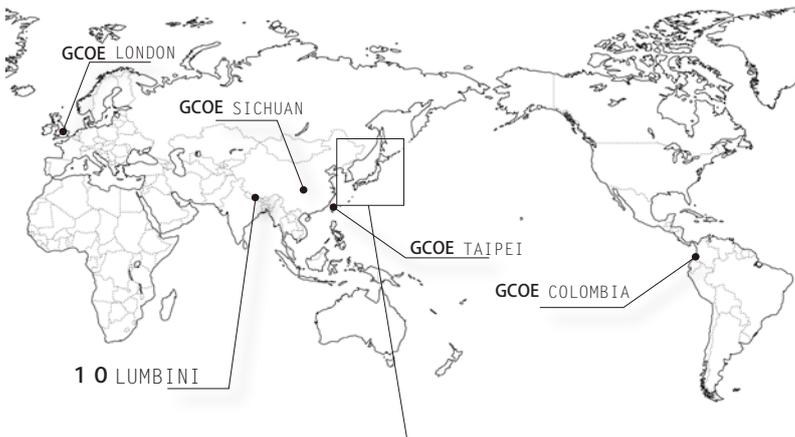
公開活動報告会 2011

Presentation of Urban Design Laboratory's Activities

UD LAB. PROJECT MAP

2011.5.9 (Mon)

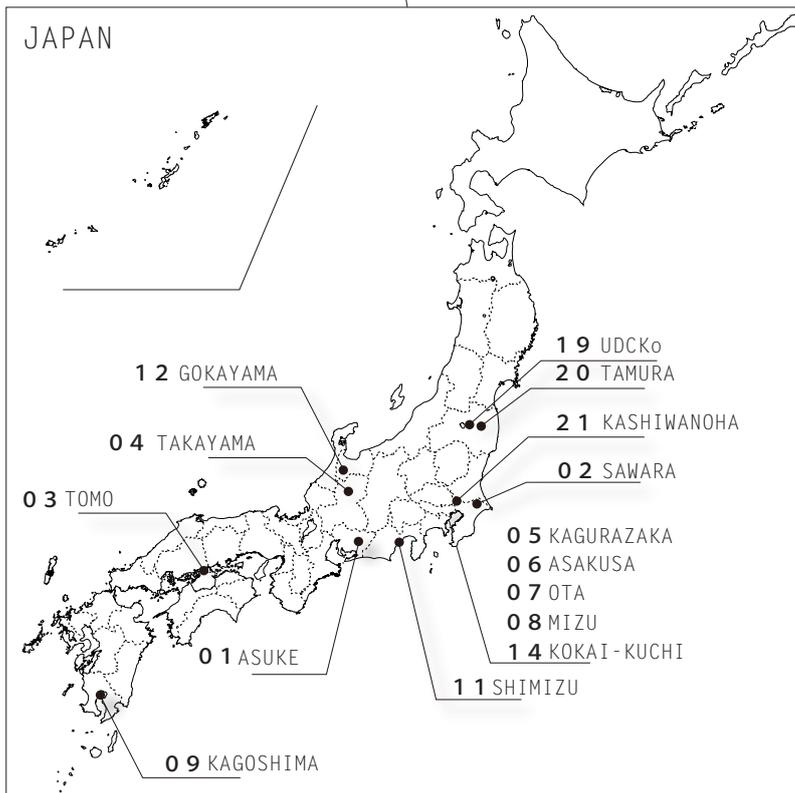
WORLD



都市デザイン研究室では、「現場で見て学ぶ」をモットーに、日本全国に加え昨年からは海外でも活動しています。「プロジェクト」と呼ばれるチームを組み、まちづくりの実践・支援活動を行い、都市デザインの基本的な考え方、専門的な技法を身につけます。本日は、各プロジェクトの活動の概要を紹介します。

- 01 ASUKE project 愛知県豊田市足助町
- 02 SAWARA project 千葉県香取市佐原
- 03 TOMO project 広島県福山市鞆の浦
- 04 TAKAYAMA project 岐阜県高山市
- 05 KAGURAZAKA project 東京都新宿区神楽坂
- 06 ASAKUSA project 東京都台東区浅草
- 07 OTA project 東京都大田区
- 08 MIZU project 東京の水辺
- 09 KAGOSHIMA project 鹿児島県鹿児島市
- 10 LUMBINI project ルンビニ / ネパール
- 11 SHIMIZU project 静岡県静岡市清水区
- 12 GOKAYAMA project 富山県南砺市五箇山集落
- 13 KOSORYOKU 日本各地
- 14 KOKAI-KUCHI project 東京都内
- 15 GCOE GCOE の活動
- 16 COMPETITIONS コンペ
- 17 MAGAZINE 研究室マガジン
- 18 UDCK UDCK の活動
- 19 UDCKo 福島県郡山市
- 20 TAMURA project 福島県田村市
- 21 KASHIWANOHA project 千葉県柏市柏の葉

JAPAN



associate prof. Aya Kobota
 assistant prof. Setsuji Nagase
 Sin Heng Wang (E2)
 Ayane Maekawa(M2)
 Bongho Lee(M2)
 Ken-ichi Yabuki(M2)

足助プロジェクト

「観光と生活の融和」とは何か？

How will the Integration of Tourism and Daily Life Be?

愛知県豊田市足助町は江戸時代、三河湾から信州へと塩を運ぶ街道「塩の道（中馬街道）」の宿場町・在郷町として栄え、現在も古い町並みが残っています。山間地の自然豊かな町であり、町の中には足助川が流れ、西側を流れる巴川沿いの渓谷「香嵐渓」は日本有数の紅葉の名所です。

しかし、足助はこの紅葉の時季の観光産業に依存しており、また日本各地の山間地と同じように、過疎や後継者不足などの問題を抱えています。そういった背景の中で、昨年12月には愛知県で初の伝統的建造物群保存地区へ指定され、その町並みは時代の転換期を迎えています。

そこで我々は「まちなか観光」を生活に資する形で戦略的に位置付けながら、持続可能な地域圏の実現へ向けての計画作りに取り組んでいます。昨年からは地元のまちづくり部会を始め、多くの方々と巻き込みながら、社会実験を行いました。本プロジェクトは今年で4年目を迎えます。



▲日本有数の紅葉「香嵐渓」



▲塩の中継地として栄えた在郷町

2010年度の活動年表

- 4
- 5
- 6 ■ 第1回現地調査
眺望調査・駐車場調査など
- 7
- 8 ■ 第2回現地調査・企画会議
地元説明会・参加して下さるお宅の募集・仕舞屋調査・マップ・サイン・展示パネル作成など
- 9
- 10 ■ 「うちめぐり」のマスコットキャラクター『うっちー』
- 11 ■ まちなか社会実験「あすけうちめぐり」開催！
- 12 ■ うちめぐり報告会
社会実験の総括とワークショップ
- 1
- 2
- 3 ■ 2010年度現地活動報告会
- 4 ■ 3月23日 @ 豊田市役所足助支所



▲足助の川空間



「うちめぐり」のマスコットキャラクター『うっちー』



▲「うちめぐり」にて中学生と。

社会実験「あすけうちめぐり」

Pilot Program "Asuke Uchi-Meguri"

「足助の「うちがわ」に秘められた魅力は観光資源になりうるか？」をテーマに町家の「うちがわ」、町並みの「うちがわ」をめぐる社会実験を昨年11月の13・14日に行いました。当日は香嵐渓でマップを配付し、700人以上の観光客をまちなかに呼び込み、足助の町家の内部や、川空間など知られざる足助の魅力伝える事に成功しました。また、交流も地域資源と捉え、積極的に住民と観光客の「うちがわ」を通じた交流の機会を設けた結果、お互いが楽しさややりがいを感じるとい事が検証の結果から分かりました。



▲かつての油屋さん「田口邸」をまちづくりミュージアムとして活用しました。



▲中では映像の上映や足助のまちづくりの歴史を来訪者にレクチャーしました。

みなさまへの熱いメッセージ！

山と川、豊かな自然に囲まれた伝統的な町並みと、美しい紅葉があなたを待ってます。伝建の指定を迎えた町並みの在り方・過疎が進む山間地の持続可能性を一緒に考えていきましょう！参加お待ちしております！！

新規募集人数 2人

MEMBERS

associate prof. Aya Kubota
 assistant prof. Setsuji Nagase
 Ryohei Suzuki(D1)
 Sai Kiguchi(M2)
 Kenzo Muramoto(M2)
 Chikako Yasukawa(M2)
 Kenichiro Yoshida(M2)

佐原プロジェクト

「重伝建だけじゃない佐原」を魅せる

Spread the benefits of Tourism to neighbor areas

利根川の舟運で栄え、「江戸優り」と称される文化や伝統が今も息づく「北総の小江戸」千葉県香取市佐原。現在では、1996年に関東で初めて重伝建（重要伝統的建造物群保存地区）に指定された歴史的な町並みや、関東三大山車祭りの一つと称される佐原の大祭（重要無形民俗文化財）を目当てに多くの観光客が関東近郊から訪れる観光地となりつつあります。

しかし、重伝建の急速な観光地化および観光客の一極集中は、賑わいを失いつつある周囲の市街地との乖離を招きつつあります。私たちは、周囲の市街地を含めたまち全体で来街者を受け入れることで、観光の一極集中を緩和し市街地を活性化させるべく、『佐原の回遊性向上』を目指した取り組みを行っています。昨年度は、重伝建に隣接し魅力的な地域資源の多い「下新町地区」において、市役所、NPO、まちの方々と協同して主に3つの取り組みを行いました。



▲小野川と歴史的な町並み（重伝建）



▲重伝建周辺の町並み（下新町）

2010年度の活動年表

- 4 サイン実験基礎調査
- 5 都計学会ポスターセッション
- 6 伝建勉強会
- 7 第1回サイン実験
- 7 第2回サイン実験
- 8 「下新町灯りあそび」開催
- 9 活動報告冊子「まち本」の作成
- 10
- 11 「下新町空間事典」開催
- 12 第1回観光行動モニター調査
- 1 第2回観光行動モニター調査
- 2 下新町住民アンケート
- 3 東日本大震災
- 4 歴史的町並みの損傷、川沿いの低地での液状化被害甚大



さむらいさんば



下新町における3つの取り組み

3 Actions in Shimo-Shinmachi

①サイン実験—サインで人を導く

重伝建から下新町への観光客の流れを作り出すためサインを製作。設置場所やサインの内容などを改良しながら計2回行いました。

②灯りあそび—夜の空間演出と交流の場作り

地元おかみさん会主催のイベントでは蔵や土間、寺の空間演出を行い、住民が来訪者との交流を楽しむ場作りを行いました。

③空間事典—地域価値発見のための道づくり

地域資源の価値を身近に感じてもらうため「スケール」をテーマに空間の面白さを解説したパネルを通り沿いに配置しました。



▲灯りあそびにて交流を楽しむ家主さん



▲空間事典で配置したパネル

みなさまへの熱いメッセージ！

東日本大震災では佐原も甚大な被害を受けました。今年度は「都市デザインを学ぶ者として震災から立ち直ろうとするまちに対して何ができるのか？」を考えながら活動します。「震災前よりも良いまちにしてやる！」という熱意のある方のご参加をお待ちしています！

新規募集人数

3人（他研究科・専攻大歓迎！）

※プロジェクト参加希望者は kenzo@ud.t.u-tokyo.ac.jp(M2 村本) まで！

靱プロジェクト

Ryukoku Univ.
associate prof. Daisuke Abe
Architecture
associate prof. Kosei Hatuta
Kosuke Naito (M2)
Frontier Sciences (Kashiwa)
Shingo Sekiya (D3)

Urban Engineering
associate prof. Aya Kubota
Daisuke Matsui (D3)
Vichienpradit Pornsan (D2)
Kosuke Kambara (D1)
Ryosuke Takami (M2)
Hiromi Nishimura (M2)
Chikako Yasukawa (M2)

まちづくりの次の展開へ向けて For the Next Term of Urban design

靱は広島県福山市に位置する歴史的な港湾都市であり、瀬戸内海の美しい自然風景や近世港湾施設をはじめとした歴史的建造物等、多くの地域資源に恵まれている。一方で、交通渋滞や人口減少の問題、急速な観光地化に伴う新たな課題等、様々なまちの課題に直面している。2009年の埋め立て架橋計画の判決を受け、まちづくりの次の展開を考えるべき時期にあるといえる。

今年で12年目となる靱プロジェクト。地元NPOの方々をはじめとした住民の方々との協働のもと、自主プロジェクトとして活動している。まちの魅力や特徴、課題を様々な観点で調査し、社会実験・活動記録誌（「靱雑誌」）の発行等を行ってきた。2年前からは、GCOEの枠組みの中で建築・社会基盤・都市工学の3専攻の学生が集まり、活動の幅を広げている。昨年度は、まちづくりの次の展開の構想に向けて、改めて「靱らしさ」を見つめ直すための調査を行った。



▲お手火の様子



▲江の浦の浜の風景

2010年度の活動年表

—4 第1回現地調査
空き家調査・交通量調査等



Teoshi-guruma

—5

■ Saiji

—6 茅の輪くぐり
6/28-30

—7 お手火
7/10-11, 18

—8 平のお祭り
8/7-8

—9 八朔の馬出し
9/11-13

—10 チョウサイ
9/17-19

—11

—12

—1 お弓神事
2/13-14

—2 ひな祭り
3/13

—3

—4

■ Nariwai

—6 ヒアリング
6/28-30

—7 実測・ヒアリング
7/9-10, 16-18

—8 実測・プロット
7/30-8/2

—9 ヒアリング
9/24-27



■ Chayagura

—6 祭事・生業の調査

—7 WS I
7/17

—8 WS II
ともボン
7/31

—9 ヨルトモ
9/25-26

地域に根ざした調査と活動

Research and Action Based on Local Area

祭事・生業の調査

「靱らしさ」とは、歴史的・物的な資源だけでなく、その背後にある人々の営み、生活・文化を解き明かし「靱らしさ」を見つめ直すことが昨年の目的であった。人々の暮らしと深く結びついている祭事と海沿いの独特な景観をつくってきた生業を取り上げ調査した。

茶屋蔵の活用に向けて

お茶屋の跡地に建つ茶屋蔵。活用に向け、工事に合わせて住民の方を対象にWSやイベントを開催し、茶屋蔵の周知と公共的な活用の可能性を探る取り組みを行った。



▲2階床板の裏に絵を描くWS「ともボン」



▲「ヨルトモ」時の茶屋蔵の利用

みなさまへの熱いメッセージ！

とにかく一度靱に行きましょう！無数の魅力の積層する靱のまちにきつと魅了されるはず…。今年度は昨年の調査をどう活かしていくか考え、靱雑誌にまとめ、まちに還元していきます。是非一緒に活動しましょう！

新規募集人数 3人

assoiate prof. Taku Nohara
(Yokohama National University)
Ryosuke Takami (M2)
Ken-ichi Yabuki (M2)
Fan Li (M2)

高山プロジェクト

「持続可能な農山村集落」を目指して Toward the Sustainable Rural Community

岐阜県高山市の中心部には城下町・商家町を起源とする、日本有数の歴史的な町並みが保全・継承されている。また周辺の農山村集落には街道を通じて伝播した飛騨高山の文化と地形に基づく集落固有の地域性が融合した集落独自の文化が今なお継承されている。

2010年度の高山プロジェクトは、高山市の周辺集落のひとつである、荘川地域の一色惣則集落を対象に地域マネジメント計画を作成した。地域マネジメント計画は集落の住民が計画・実行の主体となる計画であり、その計画づくりを住民の方々と共に行なった。調査によって、それまでに築いてきた文化、豊かな自然、生活を高めるための豊富な資源を洗い出し、それを持続的に活かし続けるための「行動」と「工夫」を考える。その「行動」と「工夫」を実行していくためのプランを練って、地域の持続的で豊かな将来像をデザインした。



▲高山市中心部の歴史的な町並み



▲一色惣則集落の地域資源：白山神社

2010年度の活動年表

—7

第1回現地調査

高山市周辺集落のプレ調査、資源調査など

—8

第2回現地調査

水路調査・建物実測調査など

—9

調査まとめ・分析とアイデア出し

—10

—11

—12

—1

—2

—3

—4



水路網マップ



第3回現地調査

アイデアカードによる提案など

アイデアの構造化
マネジメント方針へ

現地（集落）報告会開催

地域マネジメント計画の発表と意見交換

報告書作成

現地（高山市）報告会開催

地域マネジメント計画の発表

一色惣則集落マネジメントプラン

Isshiki - Sonori Settlement Management Plan

高山の町家建築と白川の合掌造りが融合した「荘川式の伝統的な建築物」や飛騨地域の山間集落の特徴である「板倉」、地形に呼応して細やかに張り巡らされた「水路網」など、一色惣則集落には、うまく活かせば価値を生み出せる資源が豊富にある。それらを実測調査などの丁寧な調査から洗い出す。こうした資源を持続的に活かし続けるための「工夫（行動）」をアイデアカードというカタチで絵を描きながら考える。27コの「工夫」を構造的に整理・体系化して、将来像をデザインし、マネジメントプランを作成。



▲荘川式の伝統的な建物の実測調査



▲アイデアカード：集落15分散歩マップ

みなさまへの熱いメッセージ！

歴史・文化溢れる高山を舞台に、アーバンデザイナー野原卓先生のもとで、デザイン・プランニングを学べます。今年度は中心市街地か郊外地域のプランニングをする予定です。参加お待ちしております！

新規募集人数

3人前後

※プロジェクト参加希望者は takami@ud.t.u-tokyo.ac.jp(M2 高見) まで！

associate prof. Aya Kubota
 Shin Nakajima (D3)
 Chikako Gotoh (D3)
 Daisuke Matsui (D3)
 Shulan Fu (D3)
 Kosuke Kambara (D1)
 Kenichiro Yoshida (M2)

神楽坂プロジェクト

「神楽坂らしさ」を考え、継承する Study and take over the "kagurazaka originality"

都心の商業地にありながら、かつての花街の歴史や文化を伝えるまち、神楽坂。第二次世界大戦時に空襲被害にあっており、元々古くからある町並みは残されていないが、間口の狭い町割りは継承されており、それが沿道景観の基礎を形作っています。近年、テレビドラマ等のメディアで取り上げられたこともあり、全国的な観光地として認知され、来街者、新規出店する店舗が増加しています。神楽坂のまちは現在大きく変化しています。

昨年度は、建物の文化財としての登録に向けた取り組みを新宿区、地元建築家とともに行いました。また新たに、かつて栄えた花街の形成過程や、それが持つ本来の景観特性を探るための研究調査が新潟、京都と共に始動しました。「神楽坂らしさ」を追求するスタンスはこれまでと変わらず、様々な視点から神楽坂の魅力と伝統文化の継承に寄与していきます。



▲住民に向けた登録文化財の勉強会



▲実測に入った矢来能楽堂の舞台

2010年度の活動年表

- 4
- 5 キーワード集出版記念展
- 6 登録文化財概略調査
+住民向け勉強会
- 7
- 8 登録文化財新宿区
中間報告
- 9 新潟古町花街シンポジウム
建物実測調査
- 10 +お座敷体験
- 11 お座敷遊び入門講座
- 12
- 1 花街研究ヒアリング
- 2 神楽坂お座敷体験
- 3 報告書づくり
- 4

花街研究の本格始動！

The start of the research on a scenery of "HANAMACHI"!

科学研究費補助金(科研費)による研究「花街研究」が東京、新潟、京都協働でスタートし、2011年も継続して調査・研究を進めていきます。花街の建築や景観の特性については明らかにされていない点が多く、上記三都市で横断的に研究を進めていき、伝統文化の継承や花街の維持活性化につなげていくことが目的です。登録文化財事業の中で調査した建物目視調査、住民の方々との連携を研究に役立て、最盛期であった昭和30年代の神楽坂花街の景観が何で構成されていたかを分析し、当時の風景を「再現」していきます。



▲花街の風景の象徴ともいえる黒塀



▲芸者さんたちによる舞の披露

みなさまへの熱いメッセージ！

まちの人たちが神楽坂に情熱を注いでいて、私たちが地元によく入り込むことができます。プロの建築家と話す機会も多く、非常に勉強になり、やりがいがあります(場所も近い)。建築に興味ある方も是非！

新規募集人数 2人～3人

※プロジェクト参加希望者は k-yoshida@ud.t.u-tokyo.ac.jp(M2 吉田) まで！

teaching fellow. Naoto Nakajima (SFC)
 Yuki Okamoto (UDCK)
 Ryohei Suzuki (D1)
 Atsuhiko Ose (M2)
 Ayane Maekawa (M2)
 Yurie Endo (M1)

浅草プロジェクト



まちを育てるきっかけを仕掛けていく

Take an action for community development

対象エリアは台東区浅草の北部地区であり、三万人近い来訪客が訪れる西の市や樋口一葉記念館でよく知られており、スカイツリー建設に伴う観光客増加に乗じて、昨今住民活動がさかんになっている地域です。

浅草PJではその周辺のいくつかの住民組織と協力し、地域活性化やまちおこしの活動に取り組んできました。昨年度は、一昨年から関わってきた一葉桜千束入谷振興会とともに、地元（光月町）の特徴である材木屋の集積を活かしたまちづくり活動として木工イベントを行ないました。

区の委託事業として行なってきたこの振興会との協力は昨年で委託期間の終了を迎えました。しかし、2年間で実現した地元の盛り上がりをここで絶やしてはいけなく、これからも関わっていききたいというメンバーの思いによって、今年も自主プロジェクトの形で続きます。



▲存在感のある材木屋が並ぶ光月町の風景



▲一葉桜千束入谷振興会のメンバー

2010年度の活動年表

- 4 光月工房リハーサル ……
- 5 活性化対策委員会開催 (地元 MTG)
- 6 第1回光月工房 ……
- 7 あじさいの鉢の作成
- 8 活性化対策委員会開催
- 9 活性化対策委員会開催
- 10 第2回光月工房 ……
- 11 ひみつきちを作成!
- 12 活性化対策委員会開催
- 13 第3回光月工房 ……
- 14 ひみつきちを増築
- 1 活性化対策委員会
- 2 今年度のまとめ
- 3 報告書作成
- 4



木工イベント「光月工房」

Operation of "Woodworking event: Kogetsu-Kobo"

昨年度の主な活動として、木工イベント「光月工房」が挙げられます。集積する材木問屋を活かしたイベントで、まちの将来像を考えて実現していくためのはじめの一歩にあたる活動です。地元の方々とともに企画運営を行ない、材木屋さん、大工さんなど様々な人に参加してもらい、地域の子供を対象にして木工をする場を作りました。

特に第2回では、端材を使って2m×3m程の小屋を製作！ラフ画段階の予想を超える、高品質の小屋が完成し、子供はもちろん大人達も大満足の特注品が完成しました。

みなさまへの熱いメッセージ!

今年はまちで端材を売る企画、小学校との連繋など新たな企画を動かして行く予定です。東京のまちについて考えてみたい、木工や材木屋に興味がある、とにかくまちを楽しみたい! そんなあなたを待っています。

新規募集人数

1人以上



▲第1回 光月工房のポスター

MEMBERS

associate prof. Susumu Kawahara
 associate prof. Taku Nohara
 project res. associate Yu Okamura
 Sai Kiguchi (M2)
 Ayane Maekawa (M2)
 Kenzo Muramoto (M2)

Members of

TOKYO METROPOLITAN UNIVERSITY
 YOKOHAMA NATIONAL UNIVERSITY

大田プロジェクト

都市計画・観光学からの産業まちづくり

Regenerate an Industrial Town through Urban Design and Tourism Approach

東京都大田区は、明治末期に近代工業が発展してから現在に至るまで、日本の工業を中心となって支え続けてきた。依然工場の数は東京 23 区中 1 位であり、また、従業員数が 20 人未満という比較的規模の小さい工場が全体の 92% を占めています。そういった中小工場で養われてきた「モノづくり」の魅力や、技術・製品・教育・観光・地域づくり・景観等、多角的・総合的な視点から引き出し、都市計画や観光学の立場からそれらを活かした「産業まちづくり」の在り方を提案・実践します。また、既存の「産業観光」(=産業遺産観光・伝統産業観光)とは異なる、生きた産業を対象とした「モノづくり観光」の在り方を探求しています。

昨年度は、東大、横国、首都大の 3 大学と大田区観光協会などにより産業創造・観光・生活の 3 つの視点から調査・提案を行ない、工場関係者に発表しました。さらに工場見学と組み合わせたプログラムでまちあるきを開催し、ものづくりをまちづくりにつなげる戦略を計画しました。



▲独特の景観を作り出す「工場町家」



▲埋立地の大規模工場。羽田空港にも近い。

2010 年度の活動年表

- 4 町工場調査
- 5 データベース作成
(町工場へのヒアリング)
大田区大森、糀谷エリア等
- 6
- 7
- 8 PJ 内に
3つのスタジオ発足
(生活/観光/産業創造
スタジオ)
- 9 それぞれが2月の発表に向け
調査を開始。
- 10
- 11 月1ペースで
蒲田周辺にて MTG
- 12 町工場へのヒアリング
- 1
- 2 モノまちラボ開催
- 3
- 4



モノまちラボ@大田工業フェア

Mono-Machi LAB.@Ota Industrial Fair 2011

昨年度の成果として、工業関係者の多く訪れる大田工業フェアにて「モノまちラボ」と題して調査結果の発表といくつかの提案を行ないました。職住近接型住居である町工場を「工場町家」と名付けそのリノベーションの提案を行ったり、実際の大田区で作られた工業製品を入れたガチャポンを実際に作って販売したりと、私たちとともに工場関係者の方々大田区在住の方々にもわくわくしてもらえる形での提案をすることができました。また、最終日には工場でのシボリ技術体験を組み込んだ新しいまちあるきを開催しました。



▲フェア来場者に展示の解説



▲町工場にて技術に興味津々のメンバー

みなさまへの熱いメッセージ!

東京をフィールドに、大学を飛び出した 3 大学が一緒になって取り組む活発な PJ です。町工場の奥深さにふれ、まちをみる新しい視点がたくさん学べること間違いなしです! 工場萌えの人は是非(笑)

新規募集人数

1人以上

associate Prof. KUBOTA Aya
Toru Yamashige(M2)
Hiromi Nishimura(M2)
Vichienpradit Pornsan(D2)
Yoshihiko Baba(D3)

水プロジェクト

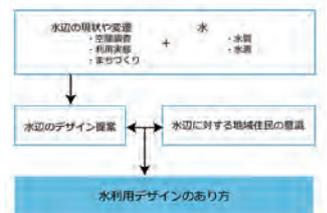
水デザインを考える

Focus on 「Water Design」

このプロジェクトは、2010年度から始まった新しい活動です。プロジェクトの大きな目標は、水デザインのあり方について、空間デザイン・水そのものの質・市民の評価といった三本柱を如何にうまく融合出来るのか、その方法論や実際のあり方を提示しようというもので、それを理論的もしくは実践的にやってみようというものです。

昨年度は、水に関する膨大な研究の勉強会を中心に活動し、水 / 水辺の抱える課題や明らかにすべき問題を議論してきました。10月以降は、対象地を外濠とし、調査を実施してきました。

このプロジェクトの最大の魅力は、様々な専門性を持った研究室以外の方と共に活動を展開していくところにあります。既に栗栖聖先生らとは、外濠への意識アンケート調査を実施しました。今後は、法政大学エコ研の皆さんや千代田区の方と一緒に活動を進めていく予定です。

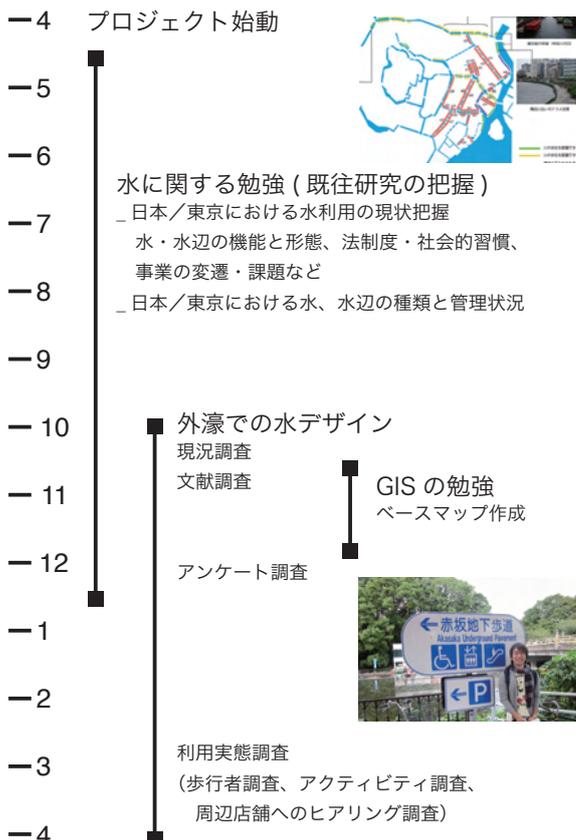


▲プロジェクトの考え方



▲環境システム研との調査後ミーティング @ CANAL CAFE

2010年度の活動年表

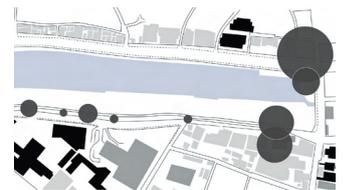


外濠への提案

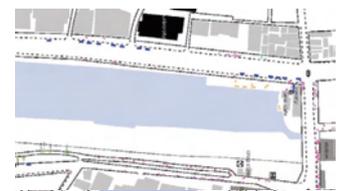
The Proporse to SOTOBORI

外濠のような線状の歴史的水辺を活かすことは、東京全体にとって、水のあり方にとって大きな影響がある！という熱い思いから、外濠で活動を進めています。

水の物理的特性を活かしたデザイン、歴史的資産へのデザイン、東京全体で外濠を位置づけるとは？、歴史的遺産を都市計画において位置づけるとはどういうことか？という切り口から、外濠の魅力向上を目指し、ルールの提案とプロジェクト的提案を考えています。本年度は、昨年度の調査を踏まえ、具体的な提案部分を作っていきます。



▲歩道の動線調査結果



▲アクティビティ調査結果

みなさまへの熱いメッセージ！

水・水辺に興味のある方、外濠って何だ？という方、デザインしたい方、東京がいいという方、他大学の人と活動してみたい方々、ちょっとでも気になった方、是非一緒に取り組んでみませんか？

新規募集人数 何名でも！

※プロジェクト参加希望者は hiromi@ud.t.u-tokyo.ac.jp(M2 西村) まで！

associate prof. Daisuke Abe
 assistant prof. Takefumi Kurose
 Vichienpradit Pornsan (D2)
 Toru Yamashige (M2)
 Kenichiro Yoshida (M2)

鹿児島プロジェクト

まちの魅力を紡いでいく

Connecting the Existing Resources

かの西郷隆盛をはじめとした、歴史に名だたる傑人の出生地で知られる鹿児島市は、歴史遺産はもちろんのこと、桜島や城山などの豊かな自然や、市最大の商店街「天文館」など様々な資源に恵まれています。それらの魅力を際立たせ、つなげることで、いかに人々の回遊の幅を広げるかという観点から、昨年度は調査・分析結果をもとにハード、ソフトの面から65の提案を市にプレゼン・提出しました。今年度は、昨年度の提案の中からとりわけ実現性・実効性が高いもの（アーバンステーション）を選び、11月に開催されるおはら祭に合わせて社会実験を行ないます。

空間、システム提案を通して街をつくり上げていく、まさに「アーバンデザイン」に直接関わることができます。また、鹿児島市役所の方々やANA総研、鹿児島国際大学学生など様々なステークホルダーを巻き込んで進めていくことも当プロジェクトの特徴でしょう。



▲街に散在する歴史資源



▲市の方々に前にした最終報告会

2010年度の活動年表

-4

-5

-6

-7



▲市民の足である市電



▲市最大の商店街：天文館

-8

第1回現地調査

ヒヤリング調査・空き家調査など

-9

-10

第2回現地調査

ヒヤリング調査・中間報告会など

-11

-12

最終報告会資料作成

-1

最終報告会

その他喜入調査など

-2

-3

報告書作成

-4



▲鹿児島国際大学の学生と共に
行なったヒヤリングの様子。

厚みのある都市構造

Diversity of the Urban Structure

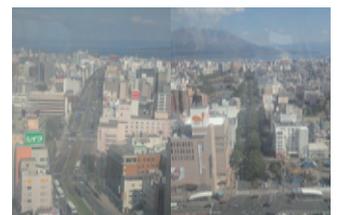
鹿児島市は、戦災復興の際に都市計画決定されたものがほぼそのまま実現した稀有な都市です。訪れた際には、市内を貫く大規模な軸や、その間を走る丁寧なグリッド構造に驚くことでしょう。また、そのような明確な都市構造の中にも、名山町をはじめとした市民の暮らしに密着した文化が随所に埋め込まれており、ミクロなスケールからマクロなスケールまで、その重層的な空間を楽しむことができます。そしてなにより、そのような土壌で育ってきた現地の方々の懐の深さや、食の旨さに舌を巻くこと間違いなしです！

みなさまへの熱いメッセージ！

当プロジェクトは始まったばかりで、今年度からいよいよ社会実験を考察・実行していきます。一から自分たちの手で作りあげていくチャンスです。薩摩志士のような熱い情熱を持った方をお待ちしております！

新規募集人数

1名程度



▲市を東西に貫く主軸：市電通り（左）とナポリ通り（右）の様子。桜島を望む。



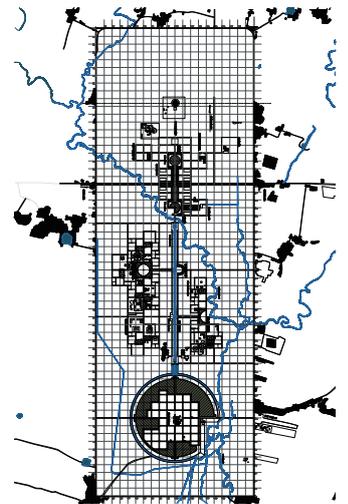
▲名山町の様子。市内にはこうした入り組んだ路地空間もいたるところに存在する。

prof. NISHIMURA Yukio
 assistant prof. Kurose Takefumi
 Shulan Fu(D3)
 Nattapong Punnoi(D3)
 Abdulla Ahlam Mohamed Saleh (D1)
 Bongho Lee(M2)

ルンビニプロジェクト

丹下健三先生の遺志を継いで Succeeding the Will of Kenzo Tange

ルンビニはネパール南部のインドと接するタライ平原に位置し、肥沃な土地にのどかな田園風景が広がる。仏教の4大聖地の1つであるルンビニは仏教の開祖：釈尊の生誕地として知られている。1967年4月、ルンビニを訪れた国連事務総長ウ・タント氏はこの地の開発と整備を示唆した。これを契機に、国連の援助によりルンビニ開発計画が進められた。研究室の創立者である丹下健三先生がマスタープランナーに任命され、1978年にマスタープランが完成した。ルンビニは1997年に「仏陀の生誕地ルンビニ」としてユネスコの世界文化遺産に登録され、多くの巡礼者や観光客で賑わっている一方、周辺の観光開発による無秩序な土地利用や文化遺産の保全問題などが生じている。今後さらに巡礼・観光需要が高まるなかで観光開発と文化遺産の保全を両立する包括的な取り組みが求められている。



▲丹下先生のルンビニマスタープラン

2010年度の活動年表

- 4 
- 5 
- 6 
- 7 
- 8 
- 9 
- 10 丹下先生の都市デザイン理論の勉強会
- 11 事前準備
- 12 現地 WS 資料の準備
- 1 調査用の地図の作成等
- 1 第一回現地調査
- 2 ユネスコのルンビニ世界遺産ワークショップ
- 3 ミッションレポート作成
- 4

世界遺産の改善提案

Improvement Proposal for the World Heritage

ルンビニ PJ は、西村先生をリーダーとするユネスコのプロジェクトとして、ネパール国内や海外からの多数の専門家チームとの連携により行われています。

2010 年末ではお正月を経て 2 週間に渡り現地調査や各専門家チームとの WS 等を行い、更に丹下先生のマスタープランに基づき、ルンビニ世界遺産の歩道の整備及び来訪者の動線の改善に向けて提案を行いました。

帰国後には今回の成果をまとめ、ミッションレポートを作成し、ユネスコに提出しました。

みなさまへの熱いメッセージ！

あなたの提案で世界遺産の将来が変わります！ルンビニ PJ チームは 4 ヶ国からのメンバーで構成された国際的なチームです。語学力を活かし、一緒に世界遺産の将来を考えて見ませんか？

新規募集人数 1 人



▲ルンビニ世界遺産の遺跡とマヤデヴィ寺院



▲現地で世界遺産の整備・改善提案を行う

新プロジェクト

清水プロジェクト

港町の新しい水辺を描く

Draw the future of Shimizu Waterfront

清水は、巴川河口を中心とした港町で古くはお茶の輸出港として栄え、戦後は工業製品の輸出と天然資源の輸入を中心として発展してきた。現在、コンテナターミナルが外港へ移転を開始しており、これまで港の中心であった内港は、これから大きく土地利用が転換することが見込まれている。

プロジェクトの対象は、この内港を中心とするエリア。中心市街地に隣接しており、JR 清水駅や静岡鉄道新清水駅からも徒歩圏内にあり、港湾としては立地に恵まれている。三保の松原などの景勝地、歴史的な倉庫群や貯木場跡地などの産業遺産など、多様な資源を活かしながら、周辺地域も含めた清水港の将来像を描くことを期待されている。



▲富士山と清水港の全景



▲貯木場跡
以前は真珠の養殖も行われていた

2011 年度の活動予定

- 4
- 5 現地踏査 第1回研究会
- 6 現地踏査 地元 WS
- 7
- 8 現地踏査 地元 WS
- 9
- 10 第2回研究会
- 11 社会実験
- 12 第3回研究会
- 1
- 2
- 3 最終報告
- 4



多様な歴史的資源を活かす

Variety of historic resources in Shimizu

日の出埠頭に残る石造倉庫群：日の出埠頭に残る石造倉庫群は、昭和初期に砂糖保税倉庫として集中して建設された。戦火を生き残り、清水港の歴史を物語る重要な建物群。

国定清水港線跡：1984年に廃線となった国鉄清水港線跡が現在も残る。土地利用転換にあわせた新たな公共交通に活用の可能性も。
テルファークレーン：貨車と船の間で木材を直接積込む機能を持ったクレーン。2000年に登録有形文化財に登録。

三保の松原 神の道：樹齢200~300年の松が並び、御穂神社から羽衣の松までを結ぶ。



▲テルファークレーン



▲三保の松原 神の道

みなさまへの熱いメッセージ！

今年度スタートの新プロジェクト。名物の新鮮な魚介とおでんを楽しみながら、資源調査から提案まで、フレッシュなメンバーで頑張りましょう。

新規募集人数 3人程度

※プロジェクト参加希望者は kurose@ud.t.u-tokyo.ac.jp(黒瀬助教)まで！

assistant prof. Setsuji Nagase
Tomoko Mori (D1)
Junko Asano (M1)
Fumihiko Omori (M1)

五箇山プロジェクト

世界遺産マスタープランの策定

Drawing up the World Heritage Master Plan

五箇山相倉・菅沼両集落は、富山県南砺市に位置し、合掌造り家屋を始めとする独特な文化・景観が現在も顕著に残っていることから、世界遺産、重要伝統的建造物群保存地区、史跡に指定されています。

本プロジェクトでは、両集落それぞれの、そして五箇山全体としての世界遺産マスタープランを策定することを目的としています。景観の保全、観光地化に伴う開発などの問題に加え、小規模な山村集落として人口減少、高齢化に伴う後継者不足など普遍的な問題も抱える中で、行政・住民・住民団体・業者・有識者など様々な主体と連携し、諸問題の解決を目指した包括的マスタープランを考えます。



▲相倉集落



▲菅沼集落

2011年度の活動予定

—4
—5
—6
—7
—8
—9
—10
—11
—12

第2回現地調査
ヒアリング調査など



▲冬は豪雪地帯（4-5m 積もります）



▲ヒアリングの様子

住民ワークショップ

Workshop with Inhabitants

マスタープランの策定にあたり、集落の問題の洗い出し、今後の方向性の決定にあたり、住民へのヒアリングに加え、集落全体のワークショップも開催予定です。

様々な問題を抱える五箇山ですが、だからこそ、住民たちの村への強い思いが感じられます。住民の意思・意志を実際の計画に落としこむ重要な仕事に関わることができます。

自然が豊かな五箇山。お米や山菜、川魚など、様々な美味しい食材を味わうこともできます！



▲土産店などのデザインガイドラインも考えていきます



▲囲炉裏を囲んだ住民の方との談笑

みなさまへの熱いメッセージ！

今年から本格的に始動する新プロジェクト。地域の人と綿密に話し合い、プランニングに携わることのできる貴重な機会です。参加お待ちしております！

新規募集人数 1人

※プロジェクト参加希望者は nagase@ud.t.u-tokyo.ac.jp(永瀬助教) まで！

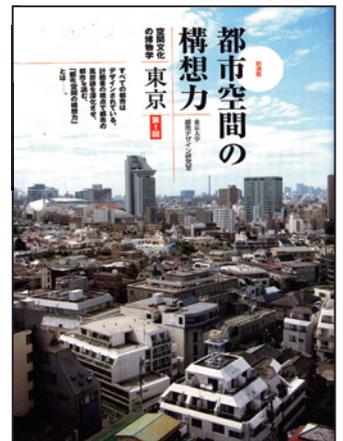
都市空間の構想力 プロジェクト

無名の風景にも意志がある —

Every Anonymous Landscape also has its own Intentions.

私たちはこれからの都市デザインの視座をどこに求め、いかなる方法論を確立すべきか。その手がかりは、身近な都市風景の中に潜在しているのではないか。そこには必ずしも、特定の計画者を指定する必要はない。それらの風景を成り立たせてきた、それぞれの物語があり、無名の「意図」の集積が、その場所に確かな「意味」をもたらしている。そうした都市空間そのものが持つ「構想力」を読み取ることで、都市づくりの新たな展望が開けるに違いない。

このプロジェクトは、現在の都市デザイン研究室のスタンスを世に問うべく、西村教授が長年温めてこられた構想をもとにしながら、2006年の秋以来、研究室の多くのメンバーが調査に参加し、議論し、模索を繰り返しながら進めてきたものです。東京でのスタディを皮切りに、やがて全国調査へと広がり、いよいよ最終段階を迎えつつあります。



▲連載第1回（2007年1月号）の表紙。
初回は本郷を対象に構想力を読み解いた。

これまでの活動年表

- 2006.12
風土学の提唱者オギュスタン・ベルク氏を招いて本郷まち歩きを実施。プロジェクトの契機。
- 2007.1 -
『季刊まちづくり』での連載の開始（全8回）。第1回は本郷。第2回～8回は東京を対象としたフィールド調査をもとに、毎回テーマを変えて構成。
- 2008.8 -
連載の終了。これまでの視点をベースに、出版に向けて全国調査を開始。
- 2009.4 -
全国調査と並行して、全6章の執筆チームにより、本の枠組み・目次構成の検討。
- 2010.4 -
追加調査を実施しつつ、本の構成を再検討。本文の執筆と、事例に関する意見交換。
- 2011.3 -
執筆、編集作業の継続と、図版の作成。入稿、出版へ。

対象は東京から全国へ

From Tokyo to nationwide researches

オギュスタン・ベルク先生を迎えた本郷まち歩きの成果を足がかりに、2008～09年にかけて『季刊まちづくり』での連載（全8回）を実施し、当時の助教や博士学生を中心に、東京でのスタディを続けてきました。連載終了後は本の出版をめざし、修士学生も交えて全国調査を行ない、豊かな都市空間のあり方を探求してきました。調査の進展とともに、並行して執筆チーム（西村教授+中島直、野原、窪田、阿部、中島伸、永瀬）により、テーマ別6章からなる本の構成を熱く議論し、現在、執筆を続けています。



▲『季刊まちづくり』第30号に掲載予定の
続・都市空間の構想力（本の予告編）冒頭。

年内の出版へ向けて

現在、5月中の入稿と年内の出版をめざし、本文執筆をコアメンバーで進めるとともに、現M2には図版作成を手伝ってもらっています。なお本の予告編が、次号（第30号；6月発行）の『季刊まちづくり』に掲載されます。そちらもどうぞお楽しみに！！

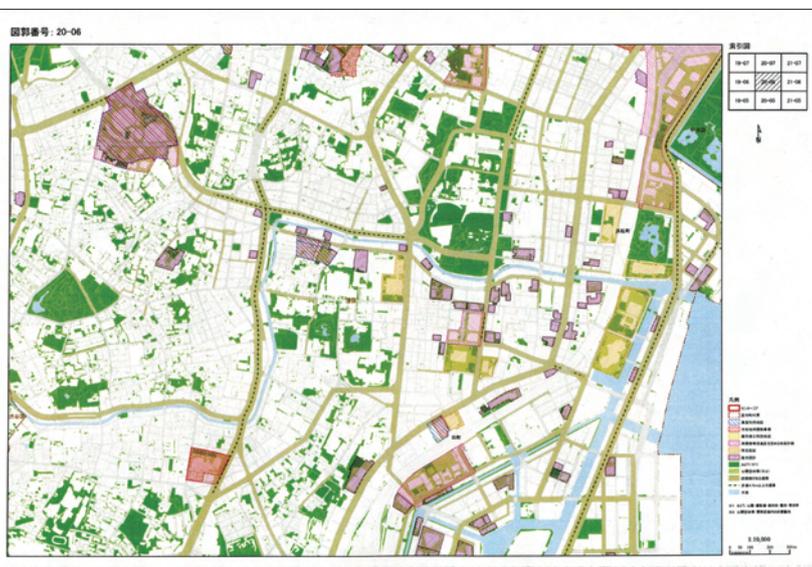
research associate Christian Dimmer
assistant prof. Takefumi Kurose

公開空地プロジェクト

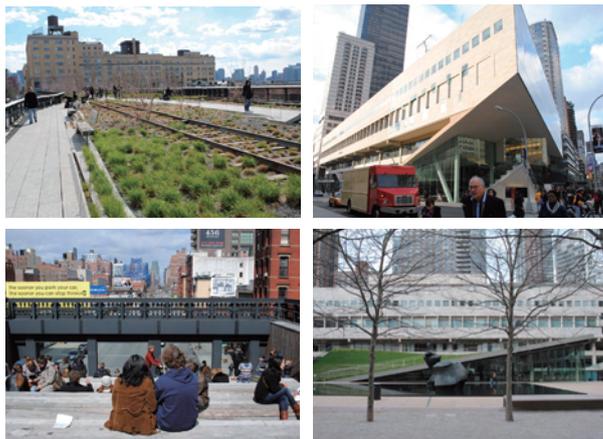
東京の公開空地をレビューする

Review the Private owned Public Space in Tokyo

東京の公開空地などのネットワークについて考えていきます！詳しくはクリス研究員から説明して頂きます！



▲港区の公開空地や緑地の分布



ちなみに、都市デザイン研究室マガジン編集部も昨年、渋谷区の宮下公園ナイキパーク化問題取材しました！



渋谷区立宮下公園

渋谷区立宮下公園は渋谷駅からほど近い明治通りとJR線路に挟まれた全長約350mの細長い公園です。1950年代前期、戦時下の強制疎開空地に公園として整備され、1960年代中期、民間企業からのプラン提示により1階駐車場、2階屋上公園という現在の形となりました。

近年老朽化問題から地元町会・商店会から改修を求める声が上がっています。2006年にはフットサルコートが整備されました。

宮下公園ナイキパーク化問題

2009年に渋谷区が命名権をナイキジャパンに売却する方針が発表されました。名称を「宮下ナイキパーク」とし、公園改修を全額負担する契約でしたが、クライミングウォールやスケートボード場を新設し、使用料を徴収するという整備方針に、様々な反対運動が起こり、公園内は反対派の拠点として公園を占拠しての抗議活動が行われていました。2010年9月には区が公園を封鎖、公園内不法占拠に対する行政代執行を行いました。この問題を受け、同年10月ナイキジャパンは当初より公園の活性化支援が目的だったとの立場から命名権を放棄し、名称を「渋谷区立宮下公園」のまま留め置くことを発表しました。現在公園は仮囲いにより封鎖されています。

こういった東京の公共空間の現状を、考えていきます。また、取材に興味がある人は是非マガジン編集部へ！



今年度も都市デザイン研究室
マガジンを御愛顧の程宜しく
お願い致します！

※プロジェクト参加希望者は chris@ud.t.u-tokyo.ac.jp(クリス研究員) まで！

GCOE

都市空間の持続再生学の展開

GCOE とは What is Sustainable Urban Regeneration?

東京大学大学院工学系研究科において都市空間に関する学術分野の多くを担う、都市工学、社会基盤学、建築学の三専攻は、既存の学問の壁を越え、都市空間の持続再生に関する学術の統合と体系化を推進し、包括的な人材育成をすすめる世界的学術拠点の形成をめざしています。都市でデザイン研究室のメンバーも若手研究者を中心とした実践型研究の推進の一環とした「国際設計スタジオ」に参加し、国内外を問わず様々な都市を対象としたデザインの提案を行っています。

都江堰市震災復興マスタープラン

Dujiangyan Earthquake Restoration Master Plan

この演習は2010年度石川幹子・隈研吾スタジオで、2008年に発生した四川大地震により甚大な被害を受けた世界遺産都市・都江堰市の震災復興マスタープランの策定及び個人の建築デザインを行いました。都市デザイン研究室からは李峰浩・李璠・矢吹、空間計画研究室からは小島・金が参加しました。4月より始まったスタジオ形式での対象地に関する地区分析・コンセプトデザインの後、5月下旬には四川省での現地調査とワークショップ(西南交通大学と協働)、世界遺産都市都江堰の復興に関するシンポジウムを開催しました。

ワークショップでは対象地を3地区に設定し、それぞれに対し復興マスタープランを作成し、帰国後(6月)各自がそのマスタープランに沿って建築デザインを行い、最終的にはポスターセッションで発表しました。

専門分野も様々で国際性に富んだメンバーと共に設計をする事で、自らの専門である「都市計画・都市デザイン」のあり方について見つめ直す機会となりました。



▲現地でのワークショップの様子



▲都江堰市歴史的街区マスタープラン



▲台北科技大学の学生とともに



▲南港地区全体プラン

台北市南港 「WHITE URBANISM」

'WHITE URBANISM' in Taipei-Nangang

台北市南港は台北市東部に位置し、基隆河の水運および工業で栄えたまちです。現在、南港地区では、工場の撤退が進み、国際展示場やポップミュージックセンターなどの大規模施設開発、高鉄(台湾の新幹線)の駅整備など、大規模な都市更新が進んでいます。

この演習では、南港駅前の廃工場の活用提案および地区全体の計画を行いました。都市デザイン研究室からは前川・村本・安川が参加しました。6月の台北でのワークショップでは現地の台北科技大学の学生とともに現地調査・提案を1週間かけて行い、その後、ワークショップの成果をさらにブラッシュアップすべく、東京大学チームで建築専攻や社会基盤学専攻の学生とともに提案を練り直し、10月には台北市主催のシンポジウムにて発表と展示を行いました。日本とは違う都市更新のスピードや学生の考え方にはじめは戸惑いましたが、日本と違うからこそ、新しい視点や国際的な視野を得ることができました。また現地の学生とは本当に仲良くなることができ、日本に遊びに来た彼らと再開し、本郷で飲んだりできることもこの演習の大きな魅力だと思います。

これからの「デザイン」を考える To Consider the Way Urban Design Should be.

世の中で随時開催されている様々なコンペ。研究室としてはなんの強制も指導もありません。研究室のメンバーが思い思いに応募し、悪戦苦闘しています。プロジェクトや授業を通して積み重ねてきた都市に対するアイデアを、時には一般化し、時には固有化し、自分らしく「デザイン」として表現すること。それは、一人のアーバンデザイナーが都市を発見し、時には都市を発見され、大きく飛躍する可能性を秘めるチャレンジとなるでしょう。

問題を探し設定する能力・図面を描く機会・模型で表現する能力・パネルによるプレゼンテーション能力・他大生との新しいつながり・自分(達)で案を収束させる力・興味の対象となる特定の本質に迫るチャンス・同じ与件で作られた他の案と比較する・自分らしいデザインについて考えるきっかけ。このような機会と能力に巡り合う機会が、コンペにはあります。



▲「Urban Incubator」模型イメージ



▲釜山で現地調査



▲現地でプレゼンテーション

これまでのコンペ(一部)

- '99 日本建築学会設計競技全国優秀賞
「都市の糸」
北澤猛・遠藤新・市原富士夫・今村洋一・野原卓・
荒俣佳子・今川俊一・栗原謙樹・田中健介・中島直人・三牧浩也
- '00 日本建築学会設計競技東北支部入選
「田園を愛で、田園に住む」
田中大朗・阿部大輔・池田聖子・宮本裕太
- '01 台北總統府広場改造計画国際設計競技入選
「Capital Plaza as a Cluster of Small Meeting Places for Miscellaneous Activities」
北沢猛・田中大朗・堀崎真一他
- '01 IFHP: Student Competition 佳作入選
「Revitalizing Urban Coreless Spaces」
石山千代・阿部大輔・安藤真理・池田晃一・
田中大朗・中島直人・村田康明
- '02 第4回まちの活性化・都市デザイン競技国土交通大臣賞
「拡がるまち」
堀崎真一・石山千代・後藤倫太郎・田中暁子・
中村元・平井朝子・村田康明・沈受貞
- '04 日本建築学会設計競技全国佳作
「マチコロ」
安田啓紀・大野友平・小林有吾・内山隆史・
黒瀬武史・戸田惣一郎
- '05 日本建築学会設計競技関東支部入選
「爪痕再生(ツメアトサイセイ)」
野原卓・黒瀬武史・大谷剛弘・柴田直・
早坂勝一・三澤茂樹・千種成顕

昨年度の活動

Works in the Last Year.

昨年度は修士から博士までコンペに多数応募し、うち2点が入選しました。

まず、都市デザイン研 M2 李峰浩と空間計画研 M2 の金令牙が窪田先生と共に参加した「釜山国際建築デザインワークショップ」で最優秀賞を受賞しました。ここでは、世界中の学生とアイデアの共有ができ、大変貴重な経験となりました。

さらに D2 ポンサンが東大の友人と取り組んだ全国大学生旅プランコンペ in 網走で「あば知り・留学旅行」が網走市観光協会会長賞を受賞しました。網走市では選抜されたプランの中から、着地型観光プランの事業化を試みようとしています。

今年も挑戦しましょう!

インターネットで「建築 コンペ」などで検索してみてください。誰しもきっと意欲が湧いてくるはず。都市デザイン研究室に入ったからにはデザインしないでどうするの、と思ったことのあるアナタ。自分のデザイン力で、当研究室の実力を見せつけてやってください。



▲慶応大学とともに表彰台にて



▲網走市でプレゼンテーション



▲授賞式にて

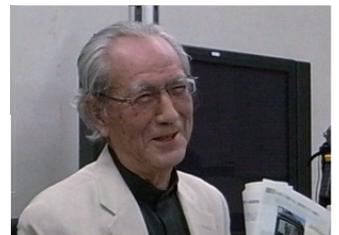
Kenichi Yabuki
Ayane Maekawa
Kenzo Muramoto
Chikako Yasukawa
research associate Christian Dimmer
assistant prof. Takefumi Kurose

研究室マガジン

発信する。つなげる。
"Publishing" is "Connecting".

今年で7年目を迎える都市デザイン研究室マガジン。2010年度は主体性のある記事作りをモットーに、社会科見学部を復活させ積極的に取材を行うなど、精力的に活動しました。

研究室マガジンは、プロジェクトをはじめ、OB・OGを含めた研究室メンバーの様々な活動を取り上げ、研究室内外を飛び出し、世界に発信していくものです。個性あるメンバーがたくさん在籍し、それぞれがいろんな活動をしている当研究室では、お互いの活動に関する情報を共有する機会が少ないのが現状です。メンバー同士が情報を共有し、お互いに刺激し合うきっかけを提供したいと、マガジン編集部は考えています。また、国内だけでなく、海外の当研究室の活動に興味を持っていただいている方々への広報活動としても、力を入れていきたいと思っています。研究室のメンバー、そして世界の人々を「つなげる」、それを胸に発行していきます。



▲初代編集長 酒井さん



▲6代目編集長 阿部さん

2010年度の活動年表

- 4 第121号発行
- 4 第122号発行
- 5 第123号発行
- 5 第124号発行
- 6 第125号発行
- 6 第126号発行
- 7 第127号発行
- 7 第128号発行
- 8 第129号発行
- 8 第130号発行
- 9 第131号発行
- 9 第132号発行
- 10 第133号発行
- 10 第134号発行
- 11 第135号発行
- 11 第136号発行
- 12 第137号発行
- 12 第138号発行
- 1 第138号発行
- 1 第139号発行
- 2 第140号発行
- 2 第141号発行
- 3 第142号発行
- 3 第143号発行
- 4 第144号発行
- 4 第145号発行



社会科見学部復活！



研究室旅行（南京）大特集！



矢吹剣一 編集長に就任

デザ研 Twitter, Facebook 開設

We Created New Account for Our Lab.

2010年度からは都市デザイン研究室を積極的に世界中に発信していくために研究室の英語版HPをリニューアルしました（デザイン：クリス研究員）。またそれに合わせ、TwitterとFacebookによる研究室の最新情報の発信も同時にスタートさせました。

紙媒体による発行というマガジン編集部の伝統を守りつつ、時代に合わせた情報ツールを併用することで、開かれた「Urban Design Laboratory」を全世界に発信していく所存であります。

日本語版HPも近々更新予定ですので、今後も都市デザイン研マガジン編集部のご期待ください！



▲新英語版HP（日本版もリニューアル予定）



▲研究室の最新情報などをツイート



▲OBOGと交流する場としても機能

研究室の活動を世界へ伝える

昨年は海外でのプロジェクトも立ち上がり、活動の幅をさらに広げました。それに合わせ、マガジン編集部も「世界」へ伝えることを意識しながら、研究室の最新情報をお伝えしていきたいと思ひます。

第1回編集会議 未定です。追って連絡します。

KASHIWA NO HA project 18

MEMBERS

Urban Design Center Kashiwanoha

UDCK vice-President Mimaki Hiroya
Director Hldaka Jin
Director Taguchi Hiroyuki
Spatial Planning lab.

UDCKとは？

柏の葉アーバンデザインセンターは柏市・柏の葉地域を中心に、まちづくりを市民、行政、NPO、企業、大学が協働する多モノ場として2006年11月に開設されました。「環境・健康・創造・交流」を軸に「国際学術研究都市づくり」を進めるため、「柏・流山地域における大学と地域の連携によるまちづくりプロジェクト」のアクションプログラムのひとつにも位置付けられています。多くの方々の議論、研究、作業の中から都市や地域の将来像を描き、実践して行こうとしています。

公・民・学の連携組織

UDCKは日本で初めての公民学連携による都市づくりのセンターです。運営は、行政や市民などの地元組織、まちづくり関連の事業に関わる企業、柏の葉にキャンパスをもつ大学といった7つの「構成団体」によって行われています。また、趣旨に賛同する「協力団体」や「支援団体」によって活動が広がっています。



▲UDCK



▲柏の葉交際キャンパスタウン構想

KORIYAMA project 19

MEMBERS

UDCKo

UDCT vice-president Tanaka Hiro
Spatial Planning lab.

郡山アーバンデザインセンターとは？

「公・民・学」が連携一地方中核の未来をデザインする

郡山アーバンデザインセンターは福島県郡山市を中心とした郡山地域を対象として、都市デザイン・まちづくりを研究・実践するNPO法人です。並木町会、並木の民間企業（ラボット・プランナー他）、東京大学（北沢猛教授）等を中心に、2008年11月に設立認証されました。

2009年度の活動年表

9	コンペ応募要項公開 テーマ座談会・現地説明会	12	2次審査会
10		1	
11	1次審査会	2	

「郊外の可能性」コンペ

郡山アーバンデザインセンター（UDCKo）の拠点、郡山市並木地区も郡山駅から約2.5km、内環状線沿いの混合市街地です。この並木地区をケーススタディとして、郊外のこれからの可能性を考えるアイデアコンペを行ないました。



▲「郊外の可能性」コンペ開催



▲最優秀作

田村プロジェクト

associate Prof. Seike Tsuyoshi
 associate Prof. Shimizu Ryo
 UDCT Tanaka Hiroo
 UDCT Hara Yusuke
 Atsuhiko Ose(M2)
 Sai Kiguchi (M2)
 Ryosuke Takami (M2)
 Hiromi Nishimura (M2)

中山間地域におけるまちづくり

Community Design in Hilly and Mountainous Areas

空間計画研究室では、2007年から福島県田村市と共同して、田村市内の5つの地区を対象に順次まちづくり調査・研究を行っています。2010年度は都路地域を対象に活動を行いました。

都路には、広葉樹も多く見られる里山と農耕地の織り成す美しい田園風景が残っており、住民同士のつながりによる助け合いの暮らしが営まれています。住民の方々のまちづくりに対する意識は大変高く、調査と同時に行われたワークショップ(WS)では、議論が白熱し、予定時間内で終わらないことがほとんどでした。前期の空間調査やヒアリング・WSから得られた情報・知見をもとに、後期は「都路まちづくり基本方針」を策定し、具体的なまちづくり提案を行いました。

今後都路では、基本方針と提案を土台として、実現に向けた社会実験を行っていきます。また、隣接する常葉地域でも調査からまちづくり実験という流れで同様の活動を行っていく予定です。



▲行司ヶ滝

2010年度の活動年表

- 4 第1回現地調査 観光資源調査・WSなど
- 5 第2回現地調査 空間調査・ヒアリング調査など
- 6 第3回現地調査 空間調査・WSなど
- 7 第4回現地調査 灯まつり参加・パネル展示など
- 8 2010年度 中間報告会
- 9 まちづくり提案作成
- 10 第5回現地調査 補足調査・WSなど
- 1 2010年度 最終報告会
- 2
- 3
- 4



‘つながり’を活かした7つの提案

Seven "Connecting" Proposals

都路の大きな特徴として挙げられた「住民同士のつながり」を活かした、交通再編、外部需要の取込、産業間の連携などの手法を提案しました。

みなさまへの熱いメッセージ！

震災のため、残念ながら今後の予定は未定となってしまいましたが、地方村落のまちづくりや風評被害からの復興などについて興味のある方、柏のメンバーと仲良くなりたい方！みんなで語り合いましょう^^

新規募集人数

何人でも！

第1回 MTG

未定です。追って連絡します。

※参加希望者は 106750a@sbk.k.u-tokyo.ac.jp(M2 木口) まで！

associate prof. Shimizu Ryo
UDCK vice-President Mimaki Hiroya
Shingo Sekiya(D3)
Junhwan Song (D2)
Younga Kim(M2)
Hiroyasu Kato(M2)

柏の葉駅広場プロジェクト

地域住民や学生による空間づくりの実践

Spatial Forming Practice by Citizen & University Participation

私たちは柏の葉地区のうち、特に柏の葉キャンパス駅の駅前空間を対象に、地域が主体となる新たな空間デザインのあり方を探り、実践につなげることを目指しています。

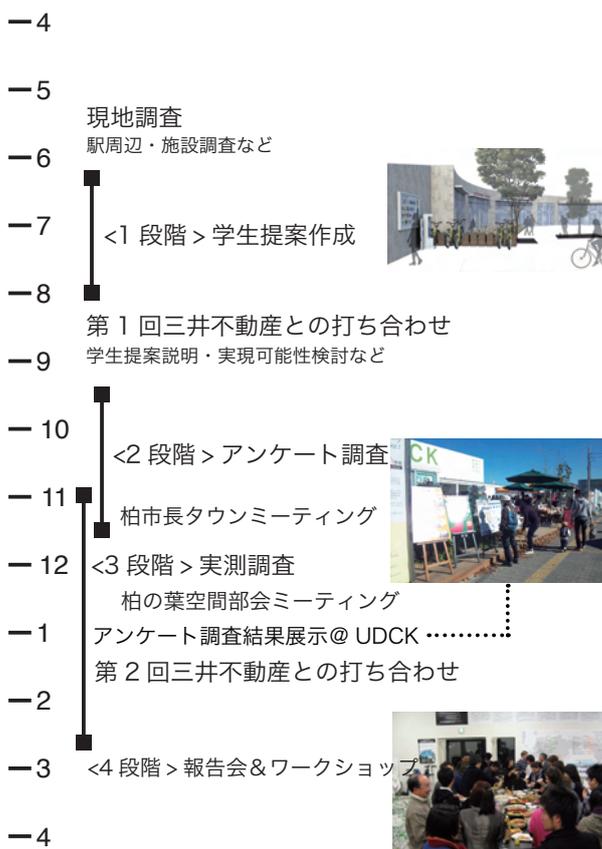
柏の葉キャンパス駅周辺では、UDCK を中心としたまちづくりの中で、マーケットの開催や市民緑化活動などが展開されています。また、交通に係る様々な研究や社会実験を通じて次世代交通の導入も検討されています。しかしいずれも、当初の区画整理事業計画に想定されておらず、場所の確保に関する制約・課題が大きいです。

住民を巻き込むとともに、開発に係る民間企業などとの連携を生まれつつあるのでこれから地域が主体となった空間づくり・空間活用の実践に向けて駅前空間の利活用に関する社会実験を検討しています。



▲地域住民アンケート調査パネル

2010 年度の活動年表



4 段階のプロセス

4 Process

地域ニーズを捉えた空間づくりの方向性を定めるために、以下の4段階のプロセスを踏みました。

- <1 段階> 学生による提案作成：住民との話し合いの叩き台、問題提議や意識喚起
- <2 段階> アンケート調査：実際にまちで暮らす市民の意見・要望の把握
- <3 段階> 実測調査：実現可能性を探るためのロータリー交通量調査や人の流れ調査
- <4 段階> 報告会とワークショップ：アンケートの結果と今後の方向について発表、具体的なテーマ別住民参加ワークショップ実施



▲マルシェの場にてアンケート調査



▲ワークショップの実施

みなさまへの熱いメッセージ！

本プロジェクトは、UDCK の専任スタッフ、柏市、三井不動産、多くの一般市民と協議をしながら、空間形成を進めていく活動です。現実性にとり、着実なプロセスプランニングの能力が培われるでしょう。

新規募集人数

多数

第1回 MTG

未定です…。追って連絡します。

※参加希望者は 106750a@sbk.k.u-tokyo.ac.jp(M2 木口) まで！

